



## 【祝福される幸いな家庭の十戒⑥】

(命を尊重する家庭)

説教者: 鄭南哲牧師 (Rev. Jung nam-chul)

聖書: 出エジプト記20:13、創世記4章1-8節/ 暗唱: エペソ人への手紙 (Ephesians) 4章26-27節

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！一週間もみんな変わりなくお元気でしたか。

昨日ようやく長かった梅雨明けとなりましたよね。1951年の統計開始以降、東海は3番目で、例年より11日も遅い梅雨明けとなったようですが、これからは30度を超える厳しい暑が続くようなので、是非夏休みが始まっている子供たちから始め、お年寄りの方々に至るまで全教会家族が熱中症や夏バテにならないようにも気をつけましょう。同時に、新型コロナウイルスの第二波の状況の中、急激に広がっています。昨日まで東京都が463人で、3日連続過去最多を更新し、愛知県も昨日では、新たな感染者が181人で4日続けて150人を超えています。小牧市も先週30日3人感染が確認され、31日には対象の方の人権尊重・個人情報の保護の為、学校名は出されてないですが、小牧市内の市立小学校・中学校でも、感染した子供学生が各1名確認されたようです。ちょうど各学校が夏休みに入り一安心ですが、こんなに感染が広がっているの、一層家庭でも、教会でも3密を避け、予防に徹的にしましょう。今日は引き続き神の十戒の6番目「殺してはならない」という戒めについて大切に学びたいと願います。

## &lt;1. 命を尊重してない人の世界&gt;

コロナウイルスにより、すでに日本内でも1008人という尊い命が失われ、今まで世界的にも67万9千人の尊い命がこのウイルスに感染されなくなりました。この数字自体もとても信じられないのに、実は人が気づかないうちに比べられないほどの尊い命が殺され失われていることをご存じでしょうか。

多少、衝撃的な詩を紹介します。ある方が墮胎児の心で書いた詩です。題目は <私も人間です！>

“ぼんやりして朝起きるころでした。/ なんとなく覚えます。/ とっても気分が悪かったからです。/ 言い表せないほど不安と恐れのお気持ちが襲い掛かって来る。/ 私を囲んでいる平安はずでなくなりました。/ ホーロー映画みたことあるでしょう。/ 死んだと思っていた怪物が最後にならず現れて主人公を苦しませる/ とっても短いその瞬間！/ 危険！/ 私は避けるのも逃げるのでもできません！やばい！/ これは違うの！助けてください。と叫びたいけど、ただあしずりするだけ、何もできません。/ 沈黙/ 母の温かかった羊水(ようすい)が口にはこぼれ入って来る/ 息苦しくなって死にそうになっているのに、だれも私のそばにはいない。/ “愛しているよ”喜んでいて彼も、私を守ってくれそうだった彼女も/ どこにいたのか。/ ついにこのするどい機械の歯が私の足を！ああ、私の小さい足をつかんで引き裂く時/ 引き裂かれた私の体が羊水の中を浮かびながら、パンプの中に吸い込まれていく時/ あなたはどこにいたのか。/ いいよ。ヒポクラテスの像の前で誓った命を救うべきその手が、あやまちをゆるせない、するどい刃物の刃が私を最後まで襲い、僕の存在が消え去って行く時/ 救い！/ 私が死ねばあなたがたの世界、あなたがたの天国が守られるなら、私を殺しなさい。/ この世はいつも死んでくれるだれかを願っているからか。/ エルサレム、北京、アウシュビッツ、そして子宮！そうです。もう今僕は母の胎内で消えていきます。/ 真空(しんくう)掃除、墮胎、人工妊娠中絶(vacuum or curettage)の形で/ 私はあんなにかわいい赤ちゃんの服も着ることがゆるされず、ああー私は消え去る。/

今日いのちが一番脅かされる場所の一つが思いがけない母の子宮となってしまいました。過去1世紀の間に世界100カ国・地域で中絶された胎児のいのち数は計10億以上であって、世界的に1年に約5千5百万～7千万ぐらいの胎児の命が意図的に墮胎され殺されていると推定されています。全世界で10億件を超えた中絶を「史上最悪のジェノサイド(大量虐殺)」と表し、生命の尊厳を守る国際的な運動が必要だと特に世界の多くのキリスト教の教会や団体が強調し、墮胎反対運動、胎児いのちを守る運動が続いています。1920年に旧ソ連が世界で初めて人工妊娠中絶を合法化して以来、世界各国で中絶が爆発的に増加され、世界で最も妊娠中絶手術が多い国が、「一人っ子政策」の下で強制中絶が行われて来た中国で、日本も5位と上位を占めていることが分かります。人口2億4千万人のアメリカの場合1年に約150万件の墮胎が報告されているし、日本の場合は厚生労働省の統計によれば、1955年(昭和30年)に約117万件、2000年(平成22年)は約34万件でしたが、2002年以降は減少しており、2011年(平成23年)は約20万件、2018年(平成30年)は約16万件であるという統計があります。

もちろん、日本では、母体(ぼたい)保護法(胎児が、母体外において生命を保続(ほぞく)することのできない時期の基準は、通常

妊娠満22週未満である)強姦、母の生命、健康、精神状態、胎児の状態により、中絶可能週数は22週まで、中絶の同意書に配偶者の同意があれば、可能となっています。20世紀中盤以降の日本国においては、母体保護法(1997年以前の法律名は優生保護法)が幅広く適用され、多数の中絶が公に行われてきた。

「母親の命が危険にさらされているときはどうしようもない」言いますが、正直、墮胎の問題に関して、これがもっとも答えるのが難しい質問です。しかし、本当にそのような状況は今日の世界で行われている墮胎の理由の0.1%未満にしかすぎないことを覚えておきましょう。今日世界で行われている墮胎のうちの95%以上は、ただ単に赤ん坊が欲しくないという理由で行われています。実際レイプ、近親相姦、母親の命が危険であるという理由で行われる墮胎は全部であわせても5%未満にすぎません。

あるリサーチによると既婚女性たちの約53%が墮胎の経験をもっていると、そしてもっとおどろかされるのは結婚もしていない女性の30%以上が墮胎を経験したと言うことです。

厳密にいうと私たちの社会はこれ以上生命尊重の社会ではありません。墮胎は殺人の一つです。自殺も、安楽死もどんな理由においても正当化されなく、聖書は殺人だとはっきりと教えて下さっています。

それだけではなく、神様の御言葉である聖書は憎しみも、暴力も殺人だと教えています。このような殺人という犯罪を恐れることなく増加する今の時代に向かって、神様は神様が許して下さった命に対して、人が勝手にしてはいけないように、神の十戒の第6目の戒めで「殺してはならない」と厳かに命じて下さっています。

## <2. いったいなぜ殺人が神の前で深刻な罪なのか。>

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！

聖書が殺人を深刻な罪として規定する一番大切な理由は殺人というのが神様のかたちでお造りなされた者を破壊するからです。

まず、創世記9章6節を読んでみましょう。

「人の血を流す者は、人によって、血を流される。神は人を神のかたちとして造ったからである。」

人間がほかの被造物と違って区別される特徴は神様のかたちによって造られた存在からです。人には、神様の息があり、神様のきよさ、神様の品性が染みられているからです。そういうわけで、神様は神の形によって造られた人間を、とつても特別な存在として愛して下さっているのです。

人類の歴史において人々は人間の存在理由を機能的に理解しようとして来ました。つまり、人間の機能が円滑であれば必要な存在ですが、もう人としての機能がちゃんと出来れば、まるでその人の存在理由がないかのような考え方です。こういった人に対する機能的な価値観と思考が通常通りの機能のむずかしい障害者や自ら動きにくい患者、年の老いた老人たち、子供たち、女性たちはあまり大切ではない存在として待遇しています。無意識の中で我々もこのような考え方にしがたって言動する時がないように気を付けましょう。

聖書的キリスト教はこのような考えを反聖書的な価値観として規定し、徹底に警戒して来ました。

人間としての価値は機能ではなく、ただ神様のかたちとして造られた存在だから、みんなが大切に、神の前ではみんな同じ平等であることを聖書は教えているからです。つまり、聖書は人間の機能可否には関係なく、すべての人は神様のかたちとして造られた尊い存在として教えています。殺人はこれほどありのままに尊い大切な価値をもっている人のいのちを奪うことによって、人の存在を破壊する深刻な罪にあたるわけなのです。

## <3. 凶器(きょうき)に変わりやすい人の舌>

ヤコブの手紙3章8-9節は殺人についてこのように語ります。

「しかし、舌(した)を制(せい)することができる人は、だれもいません。舌は休むことのない悪であり、死の毒で満ちています。

9私たちは、舌で、主であり父である方をほめたたえ、同じ舌をもって、神の似姿に造られた人間を呪います。」

時々、殺人は人間の舌、つまり言葉をとおして企(くわだ)てられます。私たちは言葉で隣人を傷づけ、言葉で隣人を殺したりします。

EX)今日、メールやインターネット上でのSNSなどで、どれほど、人に対して悪質なコメントや攻撃をしているでしょうか。自分が見れ

ないから、無名で自分の名を出さなくても良いから、ネット上で「死ね、お前の存在は消えてちょうだい、お前なんかは要らないものだ、お前を産んだ親が恥ずかしいのだとかなど」どれほど、深刻なのかわかりません。日本でも最近それで、傷つけられ自殺したりする芸能人が増えているのをご存じでしょう。教会の中でも、家庭の中でも言葉で人が自分の存在の理由や生きる自信を失わせるようなことに一切しないように、心かけて我らの使う言葉に是非気をつけましょう。

ヤコブは人の舌、人の言葉が神にかたどって造られた人を言葉でのろうことになるので気をつけなければならないと教えます。自分の好みの人であれ、違う人であれ、自分の有益となる人であれ、自分に被害を与えた人であれ、すべての人間は“神様によって、神のかたちとして造られた人”であることを強調しています。ですから、殺人や言葉の暴力をふくめた一切の殺人的な暴力はこのような神様のとうい作品を傷つけ、汚す犯罪です。ですからどんな場合においても殺人はさけるべき深刻な罪であり、万が一殺人の罪を犯した時には、これを深刻に扱うべきだと聖書は警告しているのです。

#### <4. 怒りから始まる殺人と正しい処理法: 創世記4章5節-6節/マタイの福音書5章21-24節>

ある人がだれかにむかって暴力や身体的な殺人を犯す場合、一般的に通る感情的なプロセスがあります。それは怒りです。人々は怒りの感情をとって、その怒りを治まらず、結局、暴行、暴力、そして、殺人に至ります。ですから、私たちは怒りという感情についてもう一度考え、学ぶ必要があります。今日のもう一つの本文である、創世記4章では、人間の最初の殺人事件についてくわしく述べられています。それとも、他人でもなく、家族の中で、兄カインが自分の弟アベルを石で打ち殺した殺人事件であります。この殺人事件について聖書でくりかえされてる単語が何かご存知ですか。それは「怒り」です。

創世記4章5節の後半を読んでみてください。「それで、カインは激しく怒り、顔を伏せた。」 つづけて6節を見てみてください。

「主は、カインに言われた。「なぜ、あなたは怒っているのか。なぜ、顔を伏せているのか。」

聖書はカインが彼の弟アベルを殺した原因がまさにちゃんとコントロールができなかった彼の怒り、その憤りが殺害の原因となっていたことを明確に示しています。それで神様はカインに“罪を治めるべきである。”と言われました。

聖書は決して怒りそのものを罪だとは言っていません。エペソ人への手紙4章26節をみてください。

「怒っても、罪を犯してはなりません。憤ったままで日が暮れるようであってははいけません。」

愛する信仰の家族のみなさん！聖書で神様は怒り！そのものが罪だと教えているわけではないですが、適切に扱わなければ、かならず罪に繋がり、罪に進んでしまうという御言葉内容です。

怒りというものも、神様ご自身も、罪に対して、正義と公義を守り、裁かれるために御怒りを表される神の一つの属性でもあります。ですから、神の形として造られた人にもこの怒りという感情が与えられ、それ自体が罪では決してありません。正義を守り行うための正しく怒りを使えば、例え、墮落した教会を改革する宗教運動が起される原動力(げんどうりょく)ともなるでしょう。

#### ①怒りを正しく処理する方法: 神様に自分の怒っている感情を正直にさらけ出すこと

みなさんが、もし今怒りを覚えている時、まず、すぐしゃべったり、行動に移すより、神様との時間をまず、取って下さい。

人はなかなか怒って感情的になっている時、自分の言葉や感情をコントロールすることが難しいのをみなさんもよく経験としてご存じでしょう。怒りをもったまま、すぐだれかに向かうとすぐ攻撃的になりやすく、その人がどうであっても自分の怒りを感情を一方的に出したがつてしまいます。なので、人に向かう前に、その怒りをまず、全てをご存じあり、全ての問題を解決できる、すべての関係を回復させることが出来る神様と時間をとって、祈りを持って、怒って、感情的になっている自分の心を神様に打ち明け、さらけ出して下さい。まずは、すべての真相や状況をご存じである神の前で、傷ついた相手だけではなく、何よりも自分の傷ついた心をかえりみて、神様が自分をいやしてくださるように、自分の悔しがつている問題点に対し、介入して正しく直して下さい、祈るを通して、すべてを吐き出すことにより、正義なる神様にもってゆだねられることを通して、自分の怒っていることが落ち着くことになるでしょう。感情的で爆発しそうな怒りの心に余裕がついてきます。そして、自分のことばかりではなく、相手の状況をもようやく振り返って考え始めるでしょう。詩篇のダビデはいつも“あなたがたの心を神の御前に注ぎ出せ。(詩篇62篇8節)”と言っています。みなさんは、怒りを覚えている時に、どう処理していますか。是非まず、すぐ神様の御前に出て静まりましょう。

#### ②「わたし」のメッセージで伝えること

その後、聖書は私たちの中で起きている怒りと言う感情を自制の中で、正しく扱いするように教えています。つまり、その怒りの感情を正直に、適切に対象の家族に、教会の兄弟、姉妹たちに上手に表現することを学ばなければならないと教えます。

例え、“私は先はとつても心がもやもやしてました”と話してください。

“私は今とつても悲しいです。”と話してください。このような表現自体は決して間違いではなく必要です。むしろ正直な感情の交流(こうりゆう)をとおして、すばやく問題が解決される場合が多いでしょう。しかし、攻撃的に感情で言うことはむしろ問題を悪化させることになってしまいます。ただ、自分の正直な感情を“私がなにになにだ。”と話してください。心理学者たちはこれを“I-message”だと言います。

‘あなた(You)’という単語を使う言葉(あなたのせいよ！あなたが問題だ！あなたが間違っただ！など)は攻撃や復讐の方になりやすくなります。相手もさらに憤りを覚えることにもなるので、気をつけなければなりません。

正直に自分の心を伝える機会をもったならば、今度は息を大きく吸って相手の反応を待ってみてください。なによりも、しばらく祈った後、神様の御声を待ってみてください。大体の暴力と殺人はこのような心の余裕を持たなかったことによります。今日の創世記の聖書の本文で兄カインがアベルを殺す前にこのような感情を表す余裕や神に訴えたり、さらけ出す祈りの時間を取った痕跡(こんせき)どこにも見えません。彼は怒ることで殺人したのではなく、怒りを治めることに失敗し、その怒りのまま、その怒りが自分の心と思い、その後行動まですべてを支配するためほったらかしたため、殺人の罪を犯してしまったのです。

\* マタイの福音書5章21-24節でイエス様はこう言われました。「昔の人々に対して、『殺してはならない。人を殺す者はさばきを受けなければならない』と言われていたのを、あなた方は聞いています。22しかし、わたしはあなたがたに言います。兄弟に対して怒る者は、だれでもさばきを受けなければなりません。兄弟に『ばか者』という者は最高法院でさばかれます。『愚か者』というものは火の燃えるゲヘンナに投げ込まれます。23ですから、祭壇の上に捧げ物をささげようとしているときに、兄弟が自分を恨んでいることを思い出したなら、捧げ物はそこに、祭壇の前に置き、行って、まずあなたの兄弟と仲直りをしなさい。それから戻って、その捧げ物を献(ささ)げなさい。」

## <5. 怒りと殺人に対するキリスト者の二つの大切な姿勢 >

聖書は殺人や殺人の原因となる怒りや恨み、憎しみを扱う時、この二つを強調しています。私はこの二つがいまの時代ほど殺人が蔓延している今の社会の中で我々の家庭の中、教会の中生命尊重を実現するカギだと思えます。

① 一つ目のカギは神様の観点です。神様の観点からすべての人々を見ることです。神様がいのちをささげてくださいましたのであれば、その胎児も大切に守られるべき命ではあるでしょう。自分にとってどんなに合わないタイプの人だとしても、その前に神様の観点でその人を見てみてください。みなさん自身と同じようにその人をも神様の形として造られた神様の大切な存在の人ではありませんか。私も牧師でもありますが、軟弱な人間ですので、時々、怒りが起こることがあります。

‘あの人は本当に愚かな人だな！あの人の行動は到底納得できない、もういやだな’

しかしある日、ヤコブの手紙3章に“舌をもって神にかたどって造られた人をのろいます。”という御言葉を読んでいるうちに自分がまさにそのような行動をしていると示されました。その後、気にさわられる人に出会うとその人をながめながら自分に言い聞かせようと決心しました。“あの人も神様が造られた大切な尊い存在だ。”つまり、あの人も神様の作品として、神様には愛されているのだと自分に言い聞かせます。もちろん、悪魔がその神の作品に傷つけたのは事実かも知れませんが、それにもかかわらず、その人もつねに神様が大切に、回復をまっておられる神様の作品であります。私はこれがまさに神様の観点だと信じます。

## ② 二つ目のカギは神様の支配です。

創世記4章をとおして、人類最初の殺人事件であるカインの殺人事件を調べてみましたが、新約聖書はカインが人を殺したもっと根本的な原因を説明しています。ヨハネの手紙第一3章12節です。

“カインのようであってはいけません。彼は悪いものから出た者で、自分の兄弟を殺しました。”

みなさん!悪いものはだれですか。そうです。サタンです。つまり、カインは正常な考えで殺したわけではありません。怒りのまま、心と

思いをそのまま置いてしまったら、さらにサタンが支配する隙間を与えてしまい、結局サタンの願う通り悪を行ってしまったと証言しています。イエス様もヨハネの福音書8章44節で悪魔を「悪魔は初めから人殺しである」と教えて下さいました。悪魔はいのちを奪うもの、いのちの破壊者です。いつもみなさんの心と思いを神に委ね、神の支配の中で守られていなければ、機械があるたびにサタンは人をすぐ支配しようとしていることを覚え、その隙間を、その機会を与えないように注意して行きましょう。使徒パウロもエペソ人への手紙4章26節で、「怒っても罪を犯してはいけません。」と教えながら、その次に「悪魔に機会を与えないようにしなさい。」(27節)と警告しています。私たちもどうすれば悪魔の支配を拒んで、殺人の怒りから離れ、人を愛し、いのちを尊重する人生を送ることができるのでしょうか。それは瞬間瞬間神様の支配、つまり聖霊の支配(聖霊の満たし)を慕い求めながら生きることです。エペソ人への手紙5章18節では「酒に酔ってはいけません。…御霊に満たされなさい。」と教えます。酒に酔うと酒、アルコールにコントロールされてしまうでしょう。しかし、聖霊に満たされれば、聖霊の支配を受けることができます。聖霊に満たされれば、人をあわれむことができます。人を赦す事ができます。人を愛することができます。聖霊に満たされれば人が大切に见えます。御霊の表し、結ばせて下さる実は愛、喜び、平安、寛容、親切、誠実、柔和、自制！すべての我らの内側を整えさせ、強くして下さいます。聖霊に満たされなければ、一番愛する夫が敵のように見えます。一番愛すべき妻が敵のように見えます。一番、理解し抱いてあげべき子供たちに目をそらしてしまいます。しかし聖霊に満たされれば、とつぜん妻が天使のように見えます。子供たちが本当に神様の子供のように見えます。結局妻も、子供も、ほかの人でもなく自分の問題なのです。

メッセージを終わらせます。

怒りと殺人の惑いを克服する一番のカギは‘神様の観点’です。神様の観点、つまり神様にかたどって造られた人生としてとなりと家族をながめましょう。二つ目のカギは‘神様の支配’です。瞬間瞬間神様の支配、聖霊の支配を慕い求めてください。聖霊の満たしを慕い求めてください。

みなさんの心を奪われないように、怒りがみなさんの感情、考え、行動をコントロールしないように信仰によってすべてを見るように聖霊の満たしを求めてください。すると、この世はみなさんが両手を開いて愛をもって抱かれる人々でいっぱいになると信じます。怒りと殺人に満ちているこの世の中人々や命を大切に守り尊重するクリスチャンプレイズチャーチの全信仰の家族となりますように主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン！（アーメン意味: そうなりますように。そうなることを信じます）

## <日本の墮胎に関する参考資料 >

(人工妊娠中絶と日本の墮胎罪について)

人工妊娠中絶(induced abortion)は、性行為による受精後母体で育つ胎児について、人工的な手段を用いて意図的に妊娠を中絶させることを指す。妊娠中絶の一つであり、刑法では墮胎(criminal abortion)と言われています。俗語(ぞくご)で「墮ろす(おろす)」とも呼ばれています。墮胎罪は、人間の胎児を墮胎させたものに適応される罪名。日本においては、刑法第2編第29章の墮胎の罪(刑法212条-刑法216条)に規定される。妊娠中の女子が薬物を用い、又はその他の方法により、墮胎したときは、1年以下の懲役に処せられる(刑法212条)。医師、助産師、薬剤師又は医薬品販売業者が女子の囑託を受け、又はその承諾を得て墮胎させたときは、3か月以上5年以下の懲役に処せられる。

日本国において中絶は、一般的には犯罪行為である。自分や他人の中絶を行った者は、刑法の第二十九章(墮胎の罪)にある、いずれかの条の罪を犯した者として訴追され、懲役刑に処せられる可能性がある。一方、母体保護法(1997年以前の法律名は優生保護法)は、「母体の健康を著しく害するおそれのある」場合等に、特別な医師(指定医師)が本人等の同意を得た上で「中絶を行うことができる」と定めており、この規定に則った中絶は、刑法の正当行為規定の適用をうけて、罰されることは無い。しかし、妊娠中の女子が薬物を用い、又はその他の方法により、墮胎したときは、1年以下の懲役に処せられる(刑法212条)。墮胎罪は母体の安全も保護法益とするため、女子自身の行為は法定刑が軽減されている。本罪は「妊娠中の女子」を主体とする身分犯である。そして、医師、助産師、薬剤師又は医薬品販売業者が女子の囑託を受け、又はその承諾を得て墮胎させたときは、3か月以上5年以下の懲役に処せられる。よって女子を死傷させたときは、6か月以上7年以下の懲役に処する(刑法214条)。女子の囑託又は承諾がある場合における医師など一定の身分を有する者の墮胎行為を重く処罰する規定である。「医師、助産師、薬剤師又は医薬品販売業者」を主体とする身分犯である。